

図書館報

GATEWAY

Vol.61

2025.5

ぎてるぞ、万博。

きてよぞ、万博。

4月13日に開幕した大阪・関西万博。テーマは、「いのち輝く未来社会のデザイン」。万博にまつわる物語、各パビリオンが掲げる、いのち、健康、多様性、自然環境、食文化、そして未来について集めてみました。

『アバターと共生する未来社会』



石黒 浩 著
集英社
548/I73

シグネチャー・パビリオン「いのちの未来」のプロデューサーの著書です。いわゆる自律型ロボットではなく、ヒトの分身としてのロボットの開発がどんな意味を持つか。社会の多文化化や、ヒトが身体そのものを脱ぎ捨ててゆく、本書はそんな未来像がゆっくりと説得力を持ち始める予感を抱かせます。
会場でリアルアバターに会う前にぜひ一読を。

『「国境なき医師団」の僕が世界一過酷な場所で見つけた命の次に大事なこと』



村田 慎二郎 著
サンマーク出版
159/Mu59

まずプロローグでグッと目頭が熱くなります。読み進めるうちに、自己のアイデンティティを考えてしまいます。人生は「TRY & ERROR」、自分が人生で大切にしたいことは何なのか。まだ、何者でもない自分だからこそ、自分の命の使い方は無限大。「何をを目指すのか」「何を選ぶのか」を大切にしたい。
「人生へのエール」として読んでほしい一冊です。

『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』



ブレイディみかこ 著
新潮社
376.3/B71

日本人の母（著者）とアイルランド人の父を持つ「ぼく」が通うイギリスの元底辺中学校での日常生活を描いています。その中で起こる人種差別や貧困格差の問題を母と一緒に考えながら乗り越えていく「ぼく」。
皆さんは、ご存知でしょうか？「ハーフ」（半分）は差別用語で「ダブル」（2つの文化を受け継ぐ）を使うべきということを。

『水曜の朝、午前三時』



蓮見 圭一 著
新潮社
913.6/H39

1970年、大阪万博を舞台に叶わなかった恋とその後を描くラブストーリー。戦後の高度経済成長に盛り上がる日本。大阪、京都、神戸に赴く主人公を通して当時の様子がリアルに浮かび上がってくる。昭和時代を擬似体験できる。読了後“人生は宝探しである”この強いメッセージが刻まれる。2025年、大阪・関西万博と比べて楽しんで欲しい。

『体はゆく できるを科学する<テクノロジー×身体>』



伊藤 亜紗 著
文藝春秋
501.84/I89

5人の科学者へのインタビューで構成されています。肉体の反応が、頭で考えた以上の精密なピッチングフォームを生むプロ野球選手の例や、「幻肢」の反応の応用から、思考によって義肢を動かす取組など、身体がもつ知られざるポテンシャルを解き明かす驚きの研究例に、本書でぜひ触れてみてください。
これぞ「未来を明るくする科学」です！

『世界思い出旅ごはん』



低橋 著
主婦の友社
596.04/H57

色々な国を旅した著者が、旅で出会ったローカルフードをイラストで紹介している一冊です。ペルーのセビーチェ、ネパールのモモなど、聞いたこともない色々な食べ物が紹介されています。今年は万博が開催されていて、旅行をしなくても世界の食文化に出会うチャンスです。
この著者のように色々な国の料理を楽しみに、万博へ行ってみませんか？

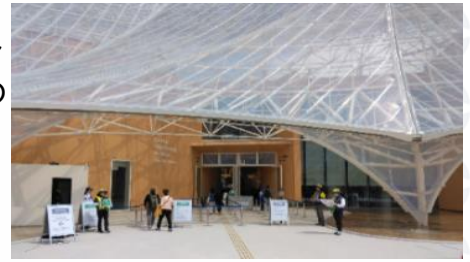
行ってきました、万博。

万博ボランティア体験記



大和高田市在住で、ボランティアなど社会活動に熱心なH.K.さん。もちろん万博ボランティアにも応募し、当選。4/5のテストランにも参加されました。

万博ボランティアの活動は、世界中から訪れる来場者への各種案内や情報提供、会場での体験サポートなど。ボランティアは、大阪ヘルスケアパビリオン1回、空港やターミナル駅が4回の計5回の活動です。開幕すぐの4月16日のパビリオンでのH.K.さんの活動の様子をお届けしたいと思います。



大阪ヘルスケアパビリオンは会場2番目の規模で、「Reborn」をテーマに7ゾーンで未来の生活を体験できる注目の展示場だ。「リボーン体験」は館内1・2階に①カラダ測定ポッド、②ミライのライド、③ミライのじぶん、④ミライのヘルスケア、⑤ミライの都市、の5つのエリアで展開、アトリウムエリアでは注目のiPS細胞の展示、その隣には、話題の「人間洗濯機」も。

私の担当エリアは2階「ミライのじぶん」エリアで、自身の健康データをもとに生成された25年後のアバターと出会う体験ができる。前出①のカラダ測定ポッドのセンサを通じて心臓、血管、筋骨格、脳、視覚、肌、歯、髪の7つの健康データが計測され、②のライドで「ミライのジブン」に入場し、測定データとリンクしたリボーンバンドを場内のたまごマークにタッチすると、2050年の自分をイメージしたアバターやヘルスケアランクがモニターに表示される仕組みだ。

スタッフ応募の際、趣味は手話と書いたつもりが、いつの間にか「手話出来ます」になっていた。ユニフォームに「手話で対応します」のバッジをつけたとたん、耳の不自由な方が来たらどうしよう、と緊張と不安が高まるなか、中学生の遠足らしき団体が来館。早速、自分の未来を測定して、「こんな顔、嫌やー！」と絶叫しまくる子、恥ずかしさからパネルに飛びつき全身で隠す子。制止しても大声で騒ぐのをやめられない女子生徒は賑やかだ。25年後に100歳を越えるというご婦人はモニター上の脳年齢や肌ランクを凝視。横から「未来も素敵ですよ～」とフォロー。若いご家族の奥様は、娘の25年後のアバターに「私の若い頃に似てるわ～」。スマホで動画などを撮影する人の中にはいったん出たのに戻ってきてもう一度撮影を希望される人、スマホ操作がわからず助けを求めてくる人、「ファンタスティック」「アメージング」を連呼する外国人など色々なお客様に出会い、今日の体験が少しでも楽しい記憶に残るよう、お手伝いを心がけた。手話対応のバッジを付けたものの手話が必要な方に会うことはなかった。

国籍や障害の有無に関わらず、毎日を楽しむことができて快適に過ごせることが、改めて生きることを見直す「Reborn=生まれ変わること」の本当のテーマかも。ここはまさに今と未来を繋ぐ世界の交差点。訪れた人にまた来たいと思ってもらえる万博は「楽しい」しかない。次、新大阪駅、天王寺駅、伊丹空港での活動が待ち遠しい。

(大阪・関西万博ボランティア H.K.)



LSS企画展示「きてるぞ、万博。」開催中！

世界最大級の木造建築物「大屋根リング」をはじめ日本館や、さまざまな海外パビリオンなど見どころ満載！世界、未来を体感できる場所です。そんな万博に関する本をLSSがセレクトし、展示しています。※貸出可

【期間】2025年5月15日(木)～10月13日(月・祝)

【場所】図書館2階



図書館ならではの景観や物、図書館にこんな所がという意外な場所や意外な物、などなど…。毎回ご紹介してまいります。

第四回「6階テラス」

- 知る人ぞ知る、6階テラス。図書館にこんなところがあったのかと思う場所です。勉強の合間の気分転換にもってこいのオープンエア。特に天気の良い日は正面の生駒山がきれいです。
- 雨の日は閉鎖しています、あしからず。



図書館6F
カウンターへ
GO!

“本、買いに行こ！” 学生選書ツアー参加者募集!!

図書館の本をあなたが選びませんか？

本屋さんに行って、自分が読みたい本、友だちに薦めたい本、課題や研究に役立つ本を選ぶことができます。学生の皆さん、ぜひご参加ください。

<開催日時> 2025年6月26日(木)16:00~18:00

<開催場所> ジュンク堂書店 難波店

<募集人数> 先着15名(本学学生対象)

<申込方法> 図書館6階カウンター、または下記メールまで。

E-mail:shusho@oucow.daishodai.ac.jp



求む！学生ライター



この図書館報「GATEWAY」をつくってみませんか？

1号全紙面まるごとでなくても、読書レビュー1冊、特集記事1本でもOK！チャレンジしてみませんか？

読書レビュー投稿者には「REVIEWER」バッジ、文章を書いた記事投稿者には「WRITER」バッジ、紙面の企画編集者には「EDITOR」バッジを進呈します(写真)。書くことが好きな方、リトルプレスに興味のある方、在学中に何かカタチに残る活動をしたい方、待ってます！

集まれ！LSS！

LSSとは??

Library Student Staff=図書館 学生 スタッフ のこと。

図書館主催イベントの運営サポートと自主活動の特設展示や古本市など、学生にいかにか本を手にとってもらえるか考え取り組んでいます。

あなたもLSSのメンバーになって、あなたが思う“利用したくなる図書館”をつくってみませんか？

※写真は、2024年度学生選書ツアーの受付を担当したLSSです。

